

# 宮崎県感染症週報

宮崎県健康増進課感染症対策室・宮崎県衛生環境研究所

## 宮崎県第6週の発生動向

### □ 全数報告の感染症 (6週までに新たに届出のあったもの)

- 1 類感染症：報告なし。2 類感染症：結核 2 例。3 類感染症：報告なし。
- 4 類感染症：E 型肝炎 1 例。
- 5 類感染症：ウイルス性肝炎 1 例、急性脳炎 1 例、後天性免疫不全症候群 2 例、侵襲性肺炎球菌感染症 1 例、百日咳 3 例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類	結核	宮崎市	70 歳代	男	結核性胸膜炎	発熱
			0~4歳	男	無症状病原体保有者	—
4類	E型肝炎	日向	50 歳代	男	—	発熱、全身倦怠感、食欲不振、黄疸、肝機能異常、肝腫大
5類	ウイルス性肝炎	宮崎市	50 歳代	男	B型	全身倦怠感、発熱、肝機能異常、黄疸
	急性脳炎	宮崎市	0~4歳	男	インフルエンザウイルスB	発熱、痙攣、意識障害
	後天性免疫不全症候群	宮崎市	40 歳代	女	感染初期	発熱、咽頭痛、嘔気、嘔吐、肝障害
			40 歳代	男	AIDS	発熱、乾性咳嗽、労作時呼吸困難 指標疾患：カンジダ症、ニューモシスティス肺炎、サイトメガロウイルス感染症
	侵襲性肺炎球菌感染症	宮崎市	60 歳代	女	—	発熱、咳、全身倦怠感、肺炎、菌血症
	百日咳	—	宮崎市	10 歳代	男	—
延岡			10 歳代	女	—	持続する咳、夜間の咳き込み、スタックート
中央			70 歳代	男	—	夜間の咳き込み

### □ 定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数は 3,884 人 (定点当たり 76.0) で、前週比 103% とほぼ横ばいであった。なお、前週に比べ増加した主な疾患は流行性耳下腺炎で、減少した主な疾患は咽頭結膜熱と A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎である。

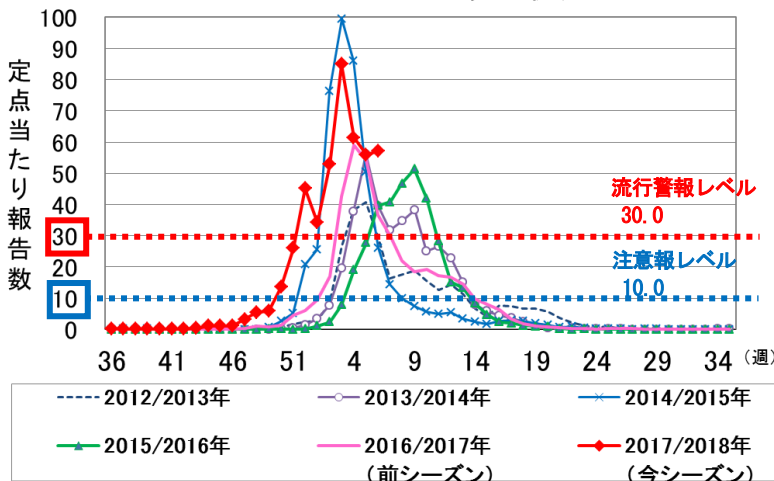
#### ★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

##### 【インフルエンザ】

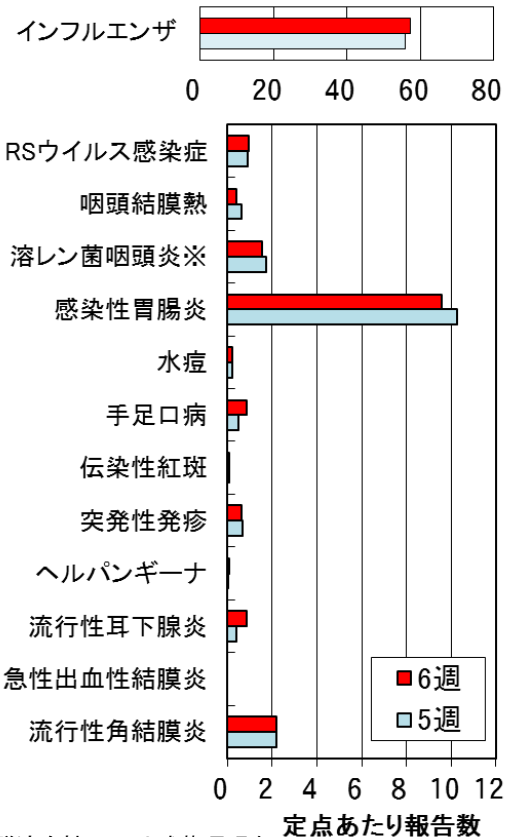
報告数は 3,316 人 (57.2) で、前週比 102% とほぼ横ばいであり、例年同時期の定点当たり平均値\* (35.6) の約 1.6 倍である。小林 (95.0)、都城 (77.0)、延岡 (66.9) 保健所からの報告が多く、年齢別は 10 歳未満が全体の約 6 割を占めている。

\* 過去 5 年間の当該週、前週、後週 (計 15 週) の平均

インフルエンザ 発生状況



《前週との比較》



※ A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

★基幹定点からの報告★

○感染性胃腸炎(ロタウイルス) :

報告数は11例で、日向(5例)、延岡(3例)、宮崎市、日南、高鍋(各1例)保健所からの報告であった。いずれも5歳未満である。なお、病原体の群別は不明である。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値超過疾患

保健所名	流行警報・注意報レベル基準値超過疾患
宮崎市	インフルエンザ(52.2)
都城	インフルエンザ(77.0)
延岡	インフルエンザ(66.9)
日南	インフルエンザ(44.0)、感染性胃腸炎(20.3)、流行性耳下腺炎(9.0)
小林	インフルエンザ(95.0)、感染性胃腸炎(23.7)
高鍋	インフルエンザ(45.3)
高千穂	インフルエンザ(15.0)
日向	インフルエンザ(35.3)
中央	インフルエンザ(43.0)

※流行警報レベル開始基準値※

- ・インフルエンザ(30.0)
- ・感染性胃腸炎(20.0)
- ・流行性耳下腺炎(6.0)

※流行注意報レベル基準値※

- ・インフルエンザ(10.0)

□病原体検出情報 (衛生環境研究所微生物部 平成30年2月13日までに検出)

★細菌

同定細菌名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
<i>Haemophilus influenzae</i> 莢膜型不明	0~4歳	不明	2018.01.29	発熱、上気道炎、下気道炎	血液	2018.02.01
EPEC(O157:H40)	20歳代	女	2018.02.01		便	2018.02.09

○0~4歳の小児の血液から *Haemophilus influenzae* (インフルエンザ菌) が分離された。小児のインフルエンザ菌による侵襲性感染症は、b型の莢膜を保有する *Haemophilus influenzae* type b (Hib) によるものが多いが、今回の菌株は a~f 型の莢膜に特異的な抗血清とはいずれも凝集しなかった。莢膜を保有しない non-typable *Haemophilus influenzae* (NTHi) の可能性も考えられるが、最終的には莢膜遺伝子の有無を確認する必要がある。

★ウイルス

同定ウイルス名	年齢	性別	採取年月日	臨床症状等	検出材料	分離・検出日
コクサッキーウイルスA2型	0~4歳	男	2017.11.22	不明の発疹症、39.5℃、丘疹	咽頭ぬぐい液	2018.02.06
インフルエンザウイルスAH1pdm09	60歳代	女	2017.12.18	インフルエンザA型、38.9℃、頭痛、関節痛	鼻汁	2018.02.08
インフルエンザウイルスAH1pdm09	10歳代	男	2017.12.19	インフルエンザA型、37.7℃、咽頭痛	咽頭ぬぐい液	2018.02.08
インフルエンザウイルスAH1pdm09	5~9歳	女	2017.12.18	インフルエンザA型、39.8℃、上気道炎、下気道炎(肺炎)	鼻汁	2018.02.08
インフルエンザウイルスAH1pdm09	5~9歳	女	2017.12.19	インフルエンザA型、39.2℃、頭痛、咽頭痛、胃腸炎(腹痛)	鼻汁	2018.02.08
インフルエンザウイルスAH1pdm09	0~4歳	女	2017.12.19	インフルエンザA型、発熱	鼻汁	2018.02.08
インフルエンザウイルスAH1pdm09	10歳代	女	2017.12.20	インフルエンザA型、39.1℃、頭痛、上気道炎、嘔気・嘔吐	鼻汁	2018.02.08
インフルエンザウイルスAH1pdm09	0~4歳	女	2018.01.05	インフルエンザA型、38.7℃	咽頭ぬぐい液	2018.01.31
インフルエンザウイルスAH3	40歳代	女	2017.12.13	インフルエンザA型、38.6℃、頭痛、上気道炎(咽頭炎)、下気道炎(気管支炎)、胃腸炎(嘔気)	鼻汁	2018.02.08
インフルエンザウイルスB(山形系統)	5~9歳	男	2017.12.19	インフルエンザB型、38.0℃、下気道炎(気管支炎)	鼻汁	2018.02.08
インフルエンザウイルスB(山形系統)	40歳代	男	2017.12.19	インフルエンザB型、39.6℃、上気道炎(咽頭炎、咽頭痛)、下気道炎(気管支炎)、頭痛、関節痛、筋肉痛(関節炎)	鼻汁	2018.02.08
インフルエンザウイルスB(山形系統)	0~4歳	女	2017.12.25	インフルエンザB型、38.5℃、上気道炎	咽頭ぬぐい液	2018.01.31
インフルエンザウイルスB(山形系統)	5~9歳	男	2017.12.27	インフルエンザB型、38.3℃、上気道炎(咽頭痛)	咽頭ぬぐい液	2018.01.31
インフルエンザウイルスB(山形系統)	5~9歳	女	2018.01.04	インフルエンザB型、39.8℃	鼻汁	2018.01.31
インフルエンザウイルスB(山形系統)	40歳代	男	2018.01.04	インフルエンザB型、40.0℃、頭痛、上気道炎(咽頭炎、咽頭痛)	鼻汁	2018.01.31
ヒトコロナウイルスOC43	0~4歳	女	2017.12.21	川崎病、39.0℃、下気道炎(気管支炎)、発疹、眼球結膜充血	咽頭ぬぐい液	2018.02.05
ヒトコロナウイルスOC43	0~4歳	男	2017.12.22	インフルエンザA型、38.2℃、関節痛、筋肉炎、上気道炎	鼻汁	2018.02.05
A型肝炎ウイルス(遺伝子型 I A)	20歳代	女	2018.01.25	A型肝炎、38.0℃、関節痛、胃腸炎(嘔気・嘔吐)、黄疸、肝機能障害、肝炎	便	2018.02.02
A型肝炎ウイルス(遺伝子型 I A)	60歳代	男	2018.01.29	A型肝炎、40.0℃、胃腸炎(嘔気、嘔吐、腹痛)、意識障害、黄疸、肝炎、肝機能障害	便	2018.02.02
A型肝炎ウイルス(遺伝子型 I A)	50歳代	女	2018.02.01	A型肝炎、上気道炎、37.5℃	便	2018.02.08

○呼吸器症状のある乳児1名、幼児1名からヒトコロナウイルス OC43 (HCoVOC43) が検出された。人に上気道炎などの呼吸器症状を起こす HCoV として、α コロナウイルスの 229E、NL63、β コロナウイルスの OC43、HKU1 がある。全国の昨年の HCoV 検出状況を見ると、229E が 3 件、NL63 が 55 件、HKU1 が 19 件、OC43 が 81 件であった。当所で HCoV が検出されたのは 2015 年以來であり、冬季に流行が見られることから、今後の動向に注意する必要がある。

○インフルエンザと診断された 14 名からインフルエンザウイルスが分離・検出された。2018 年 2 月 9 日現在の全国におけるインフルエンザウイルス分離・検出状況を見ると、今年に入り、B(山形系統)が多くなっており、次いで AH3、AH1pdm09 となっている。当所では今年に入り、AH1pdm09 が 19 件、B(山形系統)が 16 件、AH3 が 6 件分離・検出されており、AH1pdm09 がやや多い傾向となっている。

### 📊 全国 2018 年第 5 週の発生動向

#### □ 全数報告の感染症 (全国第 5 週)

1類感染症	報告なし					
2類感染症	結核	325 例				
3類感染症	細菌性赤痢	4 例	腸管出血性大腸菌感染症	8 例	腸チフス	3 例
	パラチフス	1 例				
4類感染症	E 型肝炎	6 例	A 型肝炎	4 例	レジオネラ症	26 例
5類感染症	アメーバ赤痢	6 例	ウイルス性肝炎	3 例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	27 例
	急性脳炎	29 例	クロイツフェルト・ヤコブ病	2 例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	9 例
	後天性免疫不全症候群	14 例	ジアルジア症	1 例	侵襲性インフルエンザ菌感染症	3 例
	侵襲性髄膜炎菌感染症	1 例	侵襲性肺炎球菌感染症	56 例	水痘 (入院例)	3 例
	梅毒	71 例	播種性クリプトコックス症	3 例	百日咳	36 例
	麻しん	1 例				

#### □ 定点把握の対象となる 5 類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比 103% とほぼ横ばいである。なお、前週と比較して増加した主な疾患は流行性角結膜炎で、減少した主な疾患は特になかった。

インフルエンザの報告数は 268,811 人 (54.3) で前週比 104% とほぼ横ばいであるが、例年同時期の定点当たり平均値\* (32.0) の約 1.7 倍である。大分県 (77.1)、福岡県 (70.0)、埼玉県 (68.3) からの報告が多く、年齢別では 10 歳未満が全体の約半数を占めている。

感染性胃腸炎の報告数は 16,159 人 (5.1) で前週比 100% と横ばいであり、例年同時期の定点当たり平均値 (7.8) の約 0.7 倍である。大分県 (16.9)、宮崎県 (10.3)、鹿児島県 (8.6) からの報告が多く、年齢別では 1~4 歳が全体の約 4 割を占めている。\* 過去 5 年間の当該週、前週、後週 (計 15 週) の平均値

## 月報告対象疾患の発生動向 <2018年1月>

### □性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は25人(1.9)で、前月比74%と減少した。また、昨年1月(3.5)の56%である。

《疾患別》

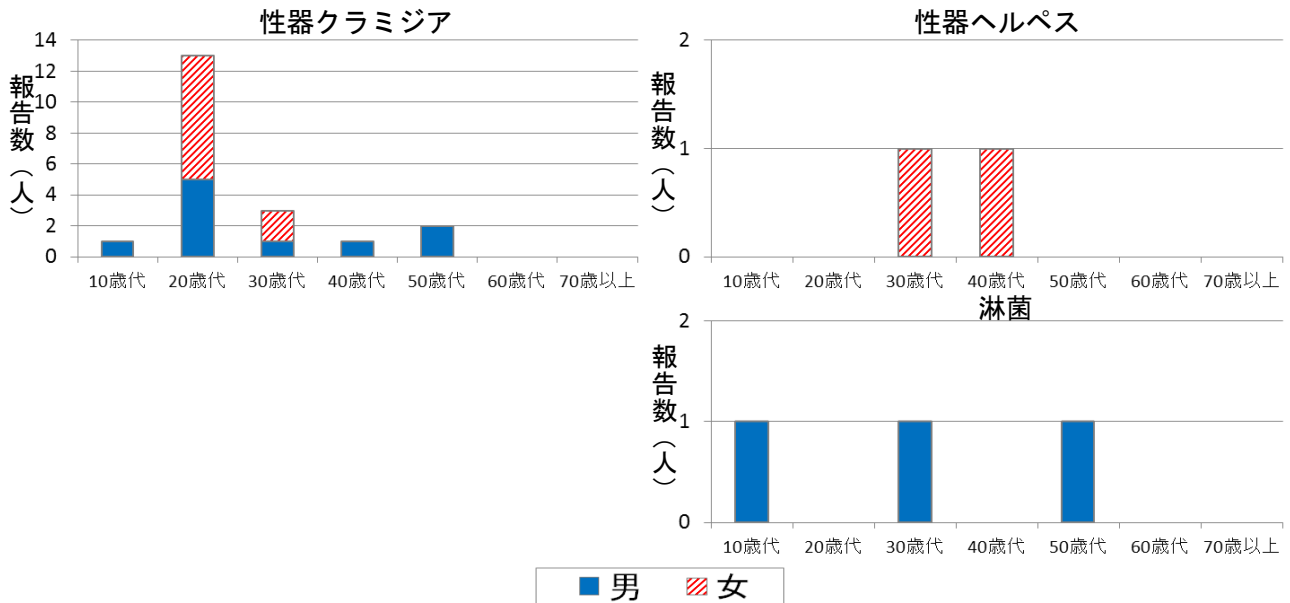
○性器クラミジア感染症：報告数20人(1.5)で、前月の約1.1倍、昨年1月の約0.8倍である。

20歳代が全体の約7割を占めた。(男性10人・女性10人)

○性器ヘルペスウイルス感染症：報告数2人(0.15)で、前月の約0.3倍、昨年1月の約0.2倍である。  
(女性2人)

○尖圭コンジローマ：報告なし。

○淋菌感染症：報告数3人(0.23)で、前月の約0.6倍、昨年1月の約0.4倍である。(男性3人)



【全国】 定点医療機関総数：980

定点医療機関からの報告総数は3,798人(3.9)で、前月比102%とほぼ横ばいであった。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症1,974人(2.0)で前月比99%、性器ヘルペスウイルス感染症729人(0.74)で前月比100%、尖圭コンジローマ416人(0.42)で前月比105%、淋菌感染症679人(0.69)で前月比110%である。

### □薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は15人(2.1)で前月比115%と増加した。また昨年1月(2.0)の107%である。

《疾患別》

○メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数15人(2.1)で、前月の約1.2倍、昨年1月の約1.2倍である。60歳以上が全体の半数以上を占めている。

○ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告なし。

○薬剤耐性緑膿菌感染症：報告なし。

【全国】 定点医療機関総数：474

定点医療機関からの報告総数は1,552人(3.3)で、前月比102%と横ばいであった。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,351人(2.9)で前月比100%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症190人(0.40)で前月比118%、薬剤耐性緑膿菌感染症11人(0.02)で前月比100%である。

宮崎県 感染症情報

(71定点医療機関)

2018年 第06週(02月05日~02月11日)

疾病名		第5週	第6週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	3305	3316	783	770	468	220	475	272	30	212	86
	定点あたり	56.02	57.17	52.20	77.00	66.86	44.00	95.00	45.33	15.00	35.33	43.00
RSウイルス 感染症	報告数	33	34	15	3	2	2		5		7	
	定点あたり	0.92	0.94	1.50	0.50	0.50	0.67	0.00	1.25	0.00	1.75	0.00
咽頭結膜熱	報告数	22	15	9		1	1		3		1	
	定点あたり	0.61	0.42	0.90	0.00	0.25	0.33	0.00	0.75	0.00	0.25	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	63	56	25	5	8	5	1			10	2
	定点あたり	1.75	1.56	2.50	0.83	2.00	1.67	0.33	0.00	0.00	2.50	2.00
感染性胃腸炎	報告数	369	345	51	66	49	61	71	14	2	25	6
	定点あたり	10.25	9.58	5.10	11.00	12.25	20.33	23.67	3.50	2.00	6.25	6.00
水痘	報告数	7	7	1	1	1	2		1		1	
	定点あたり	0.19	0.19	0.10	0.17	0.25	0.67	0.00	0.25	0.00	0.25	0.00
手足口病	報告数	18	30	17	6	2	2		2			1
	定点あたり	0.50	0.83	1.70	1.00	0.50	0.67	0.00	0.50	0.00	0.00	1.00
伝染性紅斑	報告数	3	2	1	1							
	定点あたり	0.08	0.06	0.10	0.17	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	25	22	7	7		2	3			2	1
	定点あたり	0.69	0.61	0.70	1.17	0.00	0.67	1.00	0.00	0.00	0.50	1.00
ヘルパンギーナ	報告数	1	3	1			2					
	定点あたり	0.03	0.08	0.10	0.00	0.00	0.67	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	14	30	1		1	27		1			
	定点あたり	0.39	0.83	0.10	0.00	0.25	9.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	13	13	10	1	2						
	定点あたり	2.17	2.17	3.33	0.50	2.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ 肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数		11	1		3	1		1		5	
	定点あたり	0.00	1.57	1.00	0.00	3.00	1.00	0.00	1.00		5.00	

インフルエンザ定点:58、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数  
下段:定点あたり報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2018年第1週~6週)

2類感染症	結核	21例(2)				
4類感染症	E型肝炎	1例(1)	A型肝炎	6例	つつが虫病	1例
	ウイルス性肝炎	1例(1)	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	3例	急性脳炎	4例(1)
5類感染症	後天性免疫不全症候群	3例(2)	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1例	侵襲性肺炎球菌感染症	11例(1)
	播種性クリプトコックス症	1例	百日咳	7例(3)		

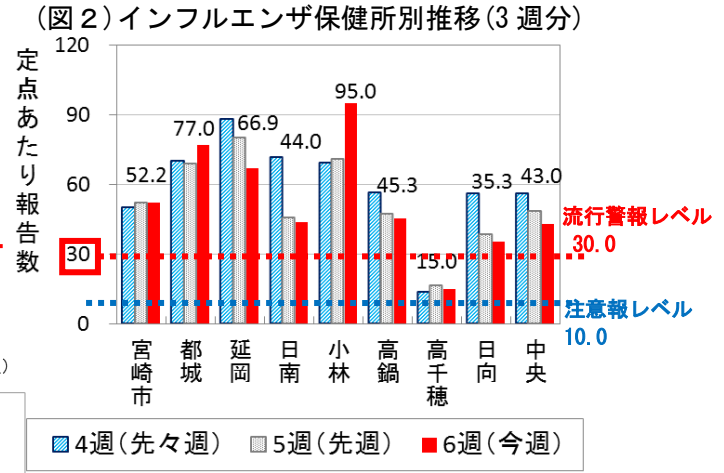
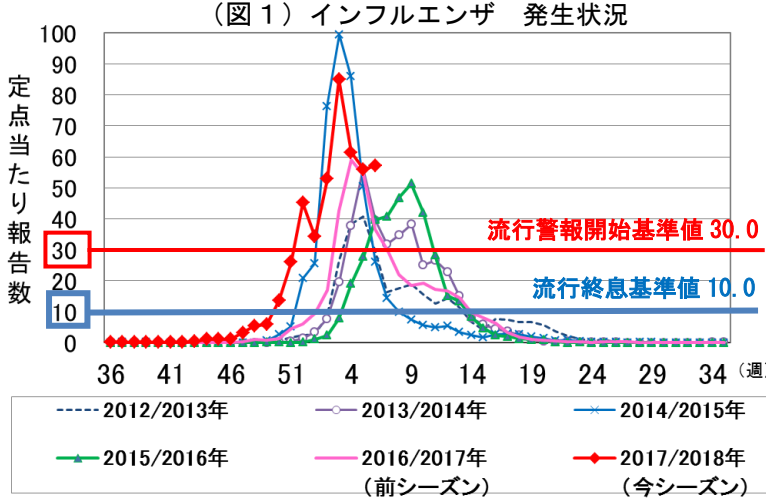
( )内は今週届出分、再掲



## インフルエンザ情報 《県内第6週、全国第5週（再掲）》

### □ 県内第6週インフルエンザ発生動向

2018年2月5日～2月11日までの1週間で3,316人（57.2）の報告があった。前週とほぼ横ばいであり、例年同時期の定点あたり平均値\*（35.6）の約1.6倍である（図1）。保健所別推移を図2に示す。年齢群別では5歳未満が全体の20%、5-9歳が35%、10-14歳が21%、15-19歳が5%、20-59歳が14%、60歳以上が5%を占めている（図3）。

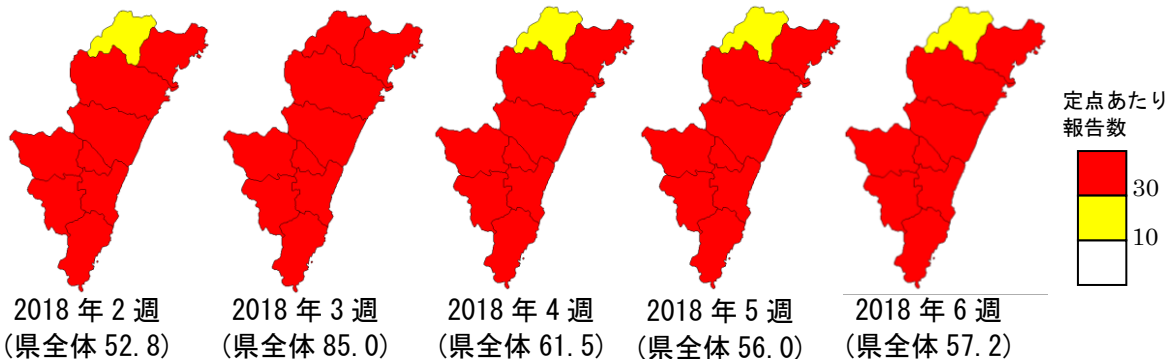


(図3) 年齢群別割合の推移(2018年第2週～第6週)

2週 3,117人	24%	25%	15%	5%	23%	8%
3週 5,013人	21%	34%	19%	4%	15%	7%
4週 3,629人	20%	34%	20%	5%	14%	7%
5週 3,305人	19%	36%	21%	5%	14%	5%
6週 3,316人	20%	35%	21%	5%	14%	5%

□ 5歳未満 □ 5～9歳 □ 10～14歳 □ 15～19歳 □ 20～59歳 □ 60歳以上

保健所別インフルエンザ流行レベルマップ 2018年第2週～第6週



### □ 全国第5週インフルエンザ発生動向

2018年1月29日～2月4日までの1週間で268,811人（54.3）の報告があり、前週とほぼ横ばいである。大分県（77.1）、福岡県（70.0）、埼玉県（68.3）からの報告が多い。年齢群別では5歳未満が全体の17%、5-9歳が34%、10-14歳が20%、15-19歳が5%、20-59歳が17%、60歳以上が7%である。